

平成30年5月2日

各関係機関の長 殿

国立大学法人宇都宮大学農学部

農学部長 夏秋 知英

【公印省略】

宇都宮大学農学部教員公募（女性限定）について（依頼）

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび宇都宮大学農学部生物資源科学科では、下記の要領により教員（助教、女性）を公募することになりました。貴機関関係者にご周知方よろしくお取り計らいくださるようお願いいたします。

謹白

記

1. 職名及び人員 助教 1名
2. 専門分野 農林フィールド土壌化学分野
3. 仕事内容 ①基礎土壌学の講義。
②分析化学に関する実験・演習科目の分担。
③大学院修士課程の講義・実験・研究科目の分担。
4. 勤務形態 常勤・任期5年
本公募では、テニユアトラック制による採用となります。任期は採用日から5年間ですが、テニユア付与審査を経て、テニユア（任期のないポスト）を取得できます。待遇は国立大学法人宇都宮大学職員就業規則に従います。
（参考：宇都宮大学規程集）
http://education.joureikun.jp/utsunomiya_univ/
5. 採用予定日 平成30年11月1日以降のなるべく早い時期
6. 応募資格 次の要件を満たす者
①博士の学位（外国において授与された方はこれに相当する学位を含む）を有する者
②国籍は問わないが、日本語で上記の担当授業科目を実施する能力を有する者
③農林フィールド土壌化学分野の土壌学等に関する優れた研究業績を有し、農林フィールドにおける学部生、大学院生の教育並びに研究指導に熱意をもち、学部・学科等の大学運営に関わる業務に積極的に取り組める者

7. 待遇
- ①給与等 国立大学法人宇都宮大学職員給与規程または国立大学法人宇都宮大学年俸制給与規程に定めるところによる
 - ②勤務形態 専門業務型裁量労働制を適用し、労働時間の算定はみなし労働時間（1日7時間45分）による
 - ③休日 土・日、祝日、年末年始（12/29～1/3）、学長が指定した日
 - ④休暇 年次有給休暇，特別休暇等
 - ⑤社会保険等 文部科学省共済組合，雇用保険加入
 - ⑥試用期間 無（テニユア付与審査を経て，テニユア取得が可能）
 - ⑦雇用者 国立大学法人宇都宮大学
 - ⑧勤務場所 宇都宮大学峰キャンパス

8. 応募書類
- ①履歴書（様式指定） 1部
 - ②業績調書（様式指定） 1部
 - ③教育・研究における抱負（様式指定） 1部
 - ④これまでの研究内容（A4判用紙に2,000字程度。様式自由） 1部
 - ⑤社会貢献に対する抱負（A4判用紙に1,000字程度。様式自由） 1部
 - ⑥応募者の研究，人物等について照会できる方（2名）の氏名・所属・連絡先
 - ⑦レフェリー制を有する学術誌に掲載された主要な原書論文10編以内（別刷りまたは学協会等のWebサイトに掲載されたPDFをダウンロードして印刷したもの，コピー不可）
- なお，様式①～③は本学HP
(<http://www.utsunomiya-u.ac.jp/outline/saiyou.php>) よりダウンロードするか，下記に請求してください。

請求先：農学部総務係 枇杷 宛

e-mail：nousomu@miya.jm.utsunomiya-u.ac.jp

TEL：028-649-5399，FAX：028-649-5401

9. 応募締切日 平成30年7月13日（金） 必着

10. 応募書類の送付先 〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350

宇都宮大学農学部 生物資源科学科 福井えみ子宛

※封筒には「教員公募の応募書類在中」と朱書きし，簡易書留で郵送してください。

11. 選考方法 書類選考後，面接・プレゼンテーション（日時：平成30年7月28日（土），研究内容，教育・研究・社会貢献の抱負を含みます）による二次審査を実施します。プレゼンテーションについては，専門外の人々にも分かり易く工夫すること。なお，面接を行う場合の旅費等は自己負担となりますので，ご了承ください。

12. 特記事項 ①本学は，子育て・仕事の両立支援策を推進しており，峰キャンパス内には「宇都宮大学まなびの森保育園」もあります。

- ②本公募においては、「男女雇用機会均等法」第8条（女性労働者に関わる措置に関する特例）の規定により、女性に限定した公募を行います。
- ③応募時に提出された書類の個人情報については、採否の検討および決定に限って使用いたします。
- ④応募書類（別刷りまたは学協会等の Web サイトに掲載されたPDF をダウンロードして印刷したものを含む）は原則返却しませんので、あらかじめご了承ください。返却を希望される場合は、切手を添付した返送用の封筒を同封してください。

13. 問い合わせ先 〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350

宇都宮大学農学部生物資源科学科 福井えみ子宛

e-mail : fukui@cc.utsunomiya-u.ac.jp

<付記>

本学部は、東京農工大学および茨城大学とともに連合農学研究科（後期3年だけの博士課程）を構成しており、採用後は連合農学研究科の指導教員資格審査を経て博士課程の教育研究の指導にも携わっていただくことになります。

宇都宮大学は、地域の「地（知）の拠点」として地域社会から期待・信頼され、広く社会に貢献する開かれた大学として、「グローバル化社会への対応」、「イノベーション創出」、「活力ある持続可能な地域社会の形成」を目指して、教育・研究・社会貢献を推進しています。

農学部では、生命の営みを遺伝子レベルから個体レベル、集団レベルにおいて研究して、食料生産およびヒトが健康に生きるための食品や日用品の開発、地球上の生態系の保全にも貢献することを目指しています。このような現状のもとで、「分子農学」と「次世代フィールド農学」を基本的な考え方として、教員人事や修士課程の改革を視野に入れています。

生物資源科学科では、食料等の人の生存に欠かせない生活資材を生産する生物資源の機能解明と開発を通じて、生物資源の持続的生産と、地域から地球に至る環境の保全を図るための基本的・応用的な教育研究を行います。そして、生物資源の合理的な生産と利用に関する理論と実践力を身につけ、グローバルな視点を持ち、農業や関連産業に貢献できるスペシャリストでありながら、ジェネラルな素養を持つ人材を養成します。

この中で、「次世代フィールド農学」では、国内および世界における農業生産とともに生産基盤である土壌などの環境保全の問題解決が極めて重要な課題です。当該分野では、国内および世界における農業生産とともに、温室効果ガスの増加抑制や環境の化学物質汚染の防止といった大気圏、水圏、生物圏の恒常性に基盤的役割を果たす土壌の機能の保全が人類の持続可能な発展に重要であるととらえています。この土壌の機能を担う土壌有機物（腐植）や粘土鉱物の生成と機能の先進的分析手法を活用した解析による新たな知の創造とイノベーションを担う土壌学と環境化学を融合した新分野「農林フィールド土壌化学」の強化は、生物資源科学の発展のために極めて重要です。

これは、本学アクションプランのグローバル(グローバルかつローカル)リーダーの育成や地域イノベーションの創出に資するとともに、新大学院地域創生科学研究科工農総合科学専攻（設置

審申請中)における工学系の物質環境化学分野との連携による融合分野の創出に貢献し、本学を強化します。この分野に関わる土壌学, 分析化学, 農業生産環境学の講義とそれらに関連する実験, 実習, 演習等を担うとともに, 行動的知性を育むフィールド科学を教育研究できる若手女性人材の確保は, 女子学生が半数を超える本学科の将来に必須であると考えています。

なお, 本学アクションプランの概要についてはホームページ (http://www.utsunomiya-u.ac.jp/docs/action_plan2016.pdf), 学科の概要についてはホームページ (<http://shigen.mine.utsunomiya-u.ac.jp/>) を参照してください。